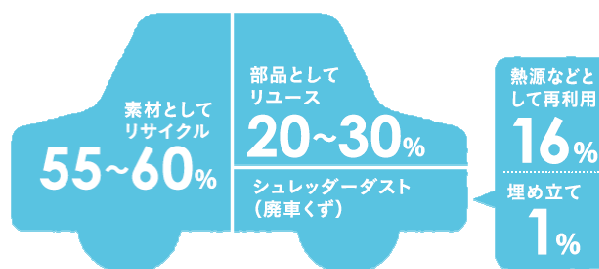


# 自動車リサイクルの高度化 に向けた取組について

平成25年7月9日  
環境省廃棄物・リサイクル対策部  
リサイクル推進室

## 自動車リサイクル制度の施行状況

- \* 平成24年度の使用済自動車の引取台数は**341万台**（平成23年度：296万台）。
- \* 自動車製造業者等各社のASRの再資源化率は、**93~96.8%**と、目標値50%を大幅に上回っている。
- \* その結果、埋立処分されている廃棄物は、使用済自動車の**約1%**に低減。



# 自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討(平成22年1月報告書抜粋)

## ◎自動車リサイクル制度の課題に対応するための施策の基本的方向性

### (2) 使用済自動車の循環的な利用の高度化

- ・使用済自動車の処理の各段階における循環的な利用の高度化を進めていくため、部品リユースの促進のための環境整備、リサイクルの阻害要因となる物品の回収体制の整備、リサイクルの高度化に向けた後押しを推進する。

これらの施策を効果的に実施するためには、拡大生産者責任に基づき自動車製造業者等による3品目のリサイクル、製造時の環境配慮設計、リサイクル技術等の開発や実証等を引き続き進展させること、自動車リサイクル法に基づく責務者を中心に広く関係各者が役割分担、連携協働していくこと等により課題の対応又は未然防止が図られるとともに、各取組の相乗効果も相まって自動車リサイクル制度が社会システムとして自律的に機能することが重要である。

# 自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討(平成22年1月報告書抜粋)

## ◎個別課題への具体的な対策

### 2. 使用済自動車の循環的な利用の高度化

#### (1) リユース部品の利用の促進

リユース部品の使用は、CO2削減効果の観点での貢献等大きなメリットになることから、これらの効果についてユーザーに示すことで、ユーザーが選択しやすい状況を構築する等、関係業界のみならず行政も含め連携を図ることで効率的な普及を図ることが必要である。

#### (3) 自動車リサイクルの高度化

循環型社会の実現のためには、レアメタルや材料リサイクルに着目した自動車リサイクルの更なる高度化は中長期課題として位置付け、引き続き検討していく必要がある。材料リサイクルについては、我が国においても可能な範囲において実施されているが、シュレッダーダスト発生抑制の観点からは解体段階における取組もその実現のための手段の一つといえる。

# 第三次循環型社会形成推進基本計画 (平成25年5月閣議決定)との関係

## 第5章 国の取組

### 第2節 国内における取組

#### 1「質」にも着目した循環型社会の形成

- (1) **2R(リデュース・リユース)**の取組がより進む社会経済システムの構築
- (2) 使用済製品からの**有用金属の回収**
- (3) **水平リサイクル**等の高度なリサイクルの推進

→循環的な利用の基本原則である、リユース、リサイクル、熱回収の優先順位を踏まえて、**「質」にも着目した使用済自動車の高度な循環的な利用を進めて行くことが必要。**

## 自動車リサイクル連携高度化事業

- \* ①自動車リユース部品の利用、②自動車に使用されている有用金属・レアメタルに着目したリサイクル、③ASRの発生抑制又は材料リサイクルについて、具体的な課題を設定し、その解決を図る実証的な取組を実施
- \* 自動車リサイクルに関連する解体業者、破碎業者、自動車製造業者等が連携することにより、リサイクルの高度化を促進
- \* 実証の結果を踏まえて、循環資源の循環的な利用及び処分の基本原則から見た事業の有効性、CO2排出量の削減効果その他の環境影響の低減効果並びに経済的及び技術的側面から見た事業の実現可能性を評価

# 鉄スクラップの高度利用化調査事業

- \* 自動車の構造用高張力鋼板は、軽薄性、成形性、車体衝突時の耐久性など高い性能を求められる部材であり、かつ、鉄スクラップに少なからず含有する銅の成分値の割合を一定以下に抑えなければならないという技術上の課題があることから、現在、国内では鉄スクラップを主な原料としている電炉では製造されていない。
- \* 一般的に製造されている構造用高張力鋼板と同等以上の品質(強度－伸びのバランス)を持たせることを目指して、電炉において鋼板を試作製造し、必要な品質を満すかどうか検証。

(参考)平成25年4月25日報道発表「国内初となる電炉での自動車構造用鋼板の試作成功について」 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16583>

## これまでの実施事業 (平成23年度 自動車リサイクル連携高度化)

事業実施者	事業名
豊田通商株式会社	使用済自動車由来の小型モーター屑からの銅資源回収(本日発表)
一般社団法人日本ELVリサイクル機構	小規模解体業者の連携によるレアメタルリサイクル～量から質へ回収スキームの高度化～
株式会社マテック	自動車バンパーマテリアルリサイクルのための選別技術実証試験
株式会社早稲田環境研究所	リユース部品の在庫「見える化」システムの構築とCO2削減効果情報提供プラットフォームを活用したインセンティブ付与に関する実証

## これまでの実施事業 (平成23年度 先進的金属リサイクル技術)

事業実施者	事業名
大越工業株式会社	レアメタル等希少金属を含む複合金属素材の流動応力分離装置の研究開発とネオジウムリニアドライブ高度分別回収装置の開発
国立大学法人東北大学	廃自動車スクラップ随伴合金元素の高度有効利用に向けたマテリアルフロー解析並びに元素分配傾向基礎調査

## これまでの実施事業 (平成24年度)

事業実施者	事業名
一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会	自動車リユース部品の利用促進のための「共創型グリーンポイントセンター」の構築に関する実証事業(本日発表)
一般社団法人日本ELVリサイクル機構	使用済自動車に含まれる貴金属・レアアース磁石の効率的な回収・リサイクルに関する実証事業(本日発表)
東京製鐵株式会社	鉄スクラップの高度利用化調査事業(本日発表)

成果報告書は、環境省ウェブサイトに掲載しています。

<http://www.env.go.jp/recycle/car/material5.html>

# 平成25年度の実施事業の募集

- \* 平成25年度自動車リサイクル連携高度化事業(公募)
  - 本日から8月6日まで公募(配布資料参照)
  - 2~3件程度を採択予定
- \* 平成25年度鉄スクラップの高度利用化調査業務(一般競争入札[総合評価落札方式])
  - 7月18日 入札説明会(詳細は環境省ウェブサイトの調達情報に掲載)

# 本日の成果報告会のねらい

- \* 自動車リサイクル連携高度化事業・鉄スクラップ高度利用化調査事業の成果について、広く知っていただくことが目的。
- \* 成果の事業化・実用化に向けて、更なる関係各者の参加・連携を促進。
- \* 平成25年度の事業への積極的な提案をお待ちしています！